

Topics

済生館 放射線科治療再開について	P.1-2
診ます会講演会が開催	P.2
済生館 連携医療機関のご紹介	P.3
発熱と頸部痛を来した症例	P.4-5
山形慢性腎臓病学会が開催	P.5
新任医師の紹介、各種ご案内	P.6

「済生館 放射線治療再開について」

放射線科 高井 憲司



当院では、がん治療の 3 本柱のひとつとして「放射線治療」もおこなっておりますが、治療機器更新のため、本年 3 月より一時的に休止させて頂きました。大変ご迷惑をおかけ致しました。

機器更新工事を鋭意おこなって参りましたが、この度完了し、12 月 14 日（月）より照射加療開始の運びとなりました。これも、皆さまのご理解・ご協力の賜物と存じ、深く感謝申し上げます。

以前の放射線治療の状況

先代の放射線治療装置は、平成 14 年 11 月より運行を開始し、本年 3 月まで稼働致しました。

その間、ご依頼頂いた患者さまの数は、実人数で 2,193 名様・のべ人数で 2,574 名様にのびります。うち約 2 割の患者さまは、当院以外の病院より直接ご依頼頂き、外来で通院しながら加療を受けて頂きました。

がん原発部位別の症例数は、「肺」「乳腺」がもっとも多く、ついで「前立腺・膀胱」・「消化器」等と続いています。【図 1】

当科にご依頼頂いた患者さまの大半は「がん」の患者さまですが、良性疾病では「甲状腺眼症（GO）」による眼瞼腫脹・眼球突出に対する症状緩和目的においても、ご依頼を頂いておりました。

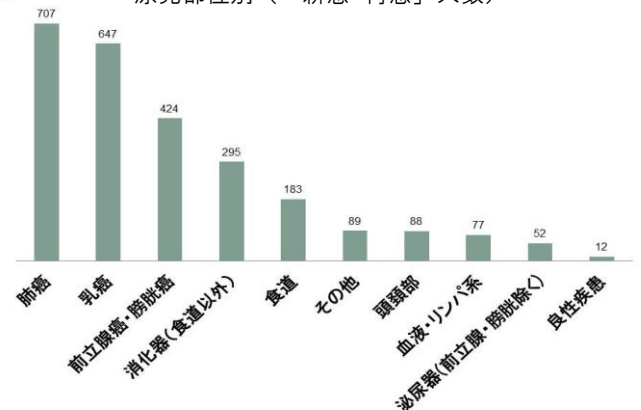


← 以前の放射線外照射装置

- ◆ 定位放射線治療（SRT）
- ◆ 前立腺等骨盤内臓器における超音波画像誘導放射線治療（US-IGRT）

平成 14 年 11 月～平成 27 年 3 月
まで稼働

図 1 原発部位別（「新患+再患」人数）

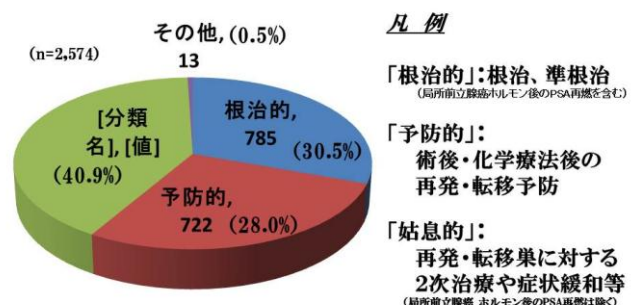


放射線治療目的別では、当院では「根治」および「術後・化学療法後の再発予防」目的が約 6 割を占め、根治的な治療の一環として放射線治療をさせて頂いております。

また、「姑息目的」は約 4 割で、転移等により疼痛などの症状で苦しんでおられる患者さまの症状緩和でも、放射線治療が寄与しております。【図 2】

なお、GO につきましては、「外眼筋肥厚型」で発症後比較的早期に放射線治療を受けた症例では、症状緩和効果が得られる割合が高いとされています。

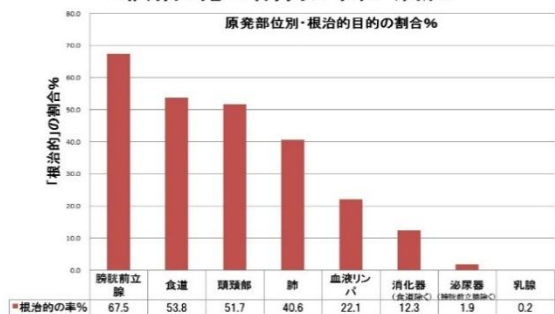
図 2 放射線治療人数（目的別、新患+再患）



放治を受けられた患者さんのうち「姑息的」が4割で最多だが、「根治的」・「予防」合わせて6割近くが根治性を目指した放治。

参考資料 済生館 放射線治療目的別内訳

「根治的」の割合が高い癌腫



「膀胱前立腺」「食道」「頭頸部」「肺」で高め。(一般的傾向にほぼ合致)

「予防的」の割合が高い癌腫



「乳癌の術後予防」「リンパ腫の化学療法後再発予防」が多い。

済生館の放射線治療の特色

また、当院の特色として、「肺などの定位放射線治療 (SRT) 初めて開始し、US-IGRT は県内唯一の施行施設でございます。肺・肝など体幹部の SRT は 205 名様、前立腺・膀胱の US-IGRT は 287 名様に施行させて頂きました (SRT はのべ人数、US-IGRT は実人数)。特に近年は、前立腺がんに対する US-IGRT のご依頼を多く頂いております。超音波画像で位置を計測してから正確に照射することで、晩期副作用として心配される直腸炎による出血のリスクを、位置照合のない放射線治療法よりも大幅に下げること、患者さまの QOL 維持に寄与しているものと自負しています。

新しい放射線治療装置

新しい放射線治療装置は、従来の機種に比べて加療に要する時間が短くなることで、患者さまへの負担をより小さくできると考えております。また、US-IGRT 装置は、国内では導入 2 例目となる「Clarity®」というシステムを導入致します。このシステムは、従来の US-IGRT 装置に加え、経会陰部プローベにより得られる超音波画像により、従来機種に比べてより正確に位置を定めることができるものと期待しております。(本法は、投稿時時点では薬事申請中・承認を受け次第開始予定。それまでは、従来通り経腹部プローベで運用致します。)

当科は、当該疾患の担当科・主治医先生と緊密に連携した上で、放射線治療をおこなっております。当院は山形市の市街中心部にあり、自動車・タクシーだけでなく徒歩・自転車・各方面からの路線バスでも通院しやすい位置にあります。当院では、放射線治療を受けられる患者さまの半数は、外来通院で受けて頂いております。病状によっては、仕事や家事を行い、日常生活のリズムを保ちながらがん治療をうけて頂いており、「切らずに治療できる」放射線治療のメリットを患者さまが最大限受けることができるものと自負しております。

新機種の治療装置導入により、これからは従来にも増して安全で良質な放射線治療を提供して参ります。

つきましては、先生方のお一層のご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



今回導入の放射線治療器

9月10日(木) 診ます会講演会 開催

「呼吸器感染症を どう診て、どう治療するか？」

東北大学 加齢医学研究所 抗感染症薬開発寄附研究部門 渡辺 彰 教授



去る 9 月 10 日 (木) 済生館大会議室で、診ます会講演会が開催されました。当日は、悪天候の中、48 名の先生方からご参加をいただきました。

主に抗菌薬の分類や使用について、症例提示および分類表を交えながら講演いただきました。「かぜ」や「肺炎」の病態別に抗菌薬の選択や、肺炎の鑑別方法など、ガイドラインを更にわかり易く説明されました。

大学の講義でも実際に使われている資料を使われ、参加された先生方やコメディカルから、「呼吸器疾患診断の基礎を確認できた」「診療所で高齢者の“かぜ”の対応について確認できた」などの感想をいただきました。



済生館 連携医療機関のご紹介 ⑤

やさく医院

内科 胃腸内科
外科 肛門外科
リハビリテーション科

Profile

やさく ゆういち
矢作 祐一 先生

昭和 60 年 山形大学医学部卒業
山形大学医学部第一外科に入局
山形市立病院済生館、山形県立河北病院
山形大学医学部附属病院、山形済生病院外科を経て
平成 15 年 7 月 やさく医院 開院



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	/
14:30~18:00	○	○	/	○	○	/	/

スタッフ 矢作先生 看護師 3 名 医療事務 3 名



〒990-2339 山形市成沢西 5-6-22

Tel 023-688-1771

このコーナーは、済生館に多数の患者様をご紹介いただいている診療所にお邪魔し、日々の診療の様子から、先生のご趣味まで、幅広くお話を伺います。

—— 開業されたきっかけは ——

勤務医時代には外科医として患者さん接していると、手術の対象となる疾病だけでなく、持病も含めた患者さんの全体像をとらえることが、とても大切に思うようになりました。その視点を活かし、家族背景を含めて患者さんの全人格と向きあう医療を実現するために開業を決心しました。

—— 先生の専門領域は ——

消化器・一般外科医でしたから、消化器疾患や乳腺・甲状腺疾患には力を入れています。毎日、経鼻内視鏡や全大腸内視鏡検査を行っています。

—— 日々の診療でこころがけていることは ——

患者さんの訴えをよく聞き、できるだけ平易な言葉で説明をするように気をつけています。医学専門用語を使って説明しても、自己満足に陥る危険があります。患者さんやご家族にとって質問しやすい雰囲気を作りたいと思っています。



待合室のテレビからは、医療に関する特集番組が流れています。

—— 医院の特徴は？ ——

院内テレビやホームページ <http://yasaku-iin.jp> を通じて、医療に関する情報を提供しています。特に、院内テレビは待ち時間を無駄にせず、患者さんにわかりやく医療情報を伝えるために独自の番組を作っています。

—— 健康面で気をつけていることは ——

朝食はたっぷり（一般家庭なら夕食なみに）食べ、夕食は軽く（翌朝空腹を感じる程度に）済ませます。塩分を徹底的に控え、漬物は食べません。また、毎日体重を記録することで、増えすぎないように注意しています。

—— 先生のご趣味を教えてください ——

歌舞伎の観劇です。好きな役者は尾上菊之助さんです。歌舞伎の世界に描かれた礼儀正しさ、潔さ、義理や恩義を大切にする精神は、日本人としていつまでも守り続けなければならないと思います。

—— 済生館にご要望はございますか ——

いつも沢山の急患を受け入れていただき心から感謝しております。連携カルテを通じて入院中の診療状況が把握でき、医院の診療で活用しております。

—— 地域の皆様にメッセージをお願いします ——

自動車社会で高カロリー、塩分過多の食生活を続けていけば、誰でも気づかぬうちに、少しずつ健康を維持できなくなるものです。空腹感を感じる程度に食事を抑える、塩分を控える、いつもより少し余分に歩くなどちょっとした工夫を積み重ねてゆくことが大切です。一緒に健康管理を考えてみましょう。



ヤマザワ成沢店から東へ 100m 緑と黄色の看板が目印です。

済生館 症例検討会 より

「発熱と頸部痛を来した症例」

神経内科 佐久間 良



神経内科では、院内・院外から髄膜炎の患者を多数紹介していただいておりますが、似たような症状を呈しながら微妙にニュアンスの異なる症例があり、時に髄膜炎とは別の診断がつく場合もあります。ここ数年、不明熱で相談を受け、最終的に Crowned Dens Syndrome（以下 CDS）と確定診断がついた自験例が数例続いたので、簡単にご報告致します。

症例提示

症例 1 は発熱と後頸部痛を主訴とした 77 歳の男性で、平成 26 年 6 月 12 日に大腸のポリペクトミーを施行しました。その後 38℃ 台に発熱しセファゾリンで解熱せず、6 月 15 日から後頸部痛も出現したという事です。WBC 7950、CRP 14.62 で、項部硬直様の所見もあり、髄膜炎の可能性についてコンサルトされました。

6 月 16 日の神経内科外来で現病歴を確認した所、右手首が腫れて熱が出て、それが治まりつつあると思ったら、頸にも痛みが生じたという経過でした。じっとしていると大丈夫ですが、頸を動かすと激痛が走り、頸が回らないとの訴えです。以前にも右手首が腫れ、近くの整形外科医院で関節注射をした既往も聴取されました。

身体所見・神経所見では、意識清明で笑う余裕もある位で、髄膜炎のような重篤感には乏しいようでした。右手首の痛みも訴えており、頸部痛は前屈の時だけでなく、どの方向に動かしても痛むとの事でした。頭痛の訴えはなく、Kernig 徴候も陰性でした。総じて、CRP の割に重篤感が乏しい印象で、頭痛ではなく頸部痛が主体であり、右手関節炎を伴い、過去にも関節炎らしき既往があるようでした。

症例 2 は認知症・気管支喘息でみゆき会病院通院中の 93 歳女性で、こちらも発熱と頸部痛が主訴でした。平成 27 年 1 月 13 日から 38℃ 台に発熱し、尿混濁がある事から尿路感染症を疑われ、1 月 16 日に当院呼吸器内科に紹介となりました。経過中に頸の痛みも訴えていたと記載がありました。体温 38.4℃、WBC 7850、CRP 18.59 で、まずは尿路感染症としてセフメタゾンが投与されましたが、その後も発熱が持続し痛くて頸が動かせないため、髄膜炎の可能性についてコンサルトされました。

1 月 19 日の神経内科外来で現病歴を確認した所、頸部痛は悪化しているものの頭痛の訴えはなく、食事も 9～10 割摂れていました。認知症はありますが、痛い所を聞くと「頸が痛い」と話し、頭は痛くないのか改めて確認しても

「頭痛はない」との返事でした。頸は他動的に動かすと全方向で痛み、左手関節の熱感・疼痛も認められました。

1 月 19 日の当科の採血では、WBC 9520、CRP 23.55 と抗生剤投与にも関わらず炎症所見が悪化していましたが、CRP の割には重篤感が乏しい印象を受けました。やはり頸痛ではなく頸部痛が主体で、左手関節炎も伴っていました。

症例 3 は左後頸部から左後頭部の痛みを訴える 63 歳の女性です。平成 27 年 6 月 19 日朝から症状が出現し、時に嘔吐もあり、6 月 21 日に救急車で当院救急室に搬送されました。意識清明ですが「頸が固い」事と、体温 37.6℃、WBC 8760、CRP 1.858 から、髄膜炎の可能性について神経内科当番医に電話相談され、まずはロキソプロフェンで経過観察の方針となっていました。

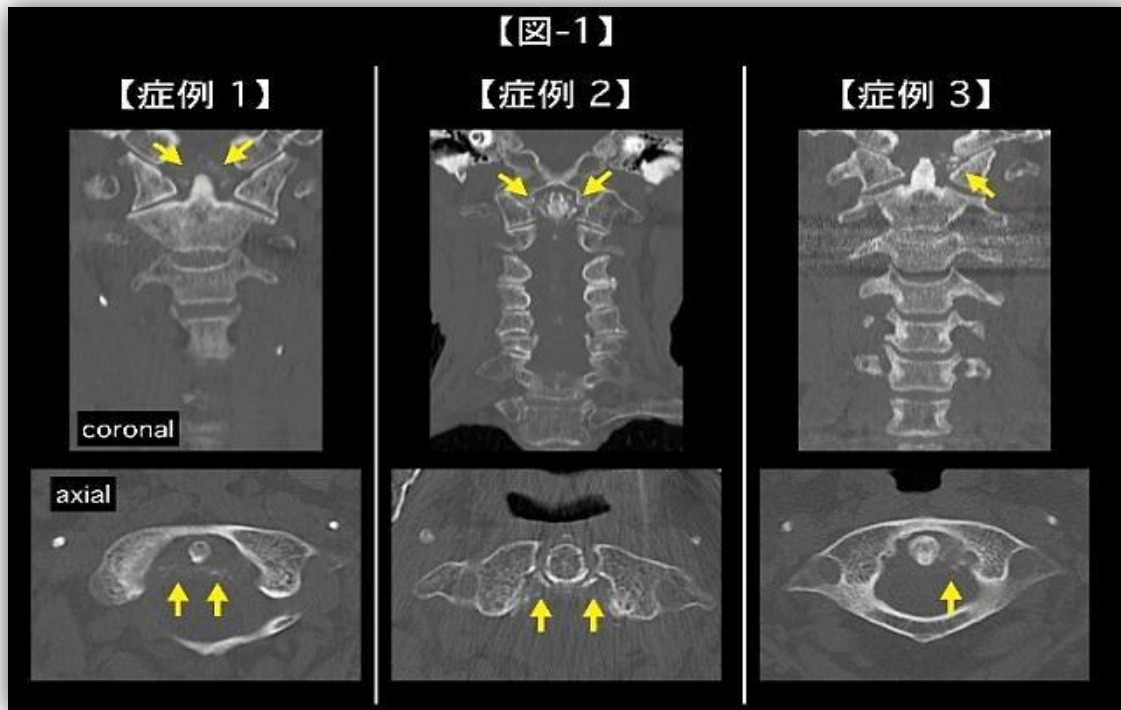
6 月 24 日に神経内科外来で現病歴を確認した所、左後頸部痛で頸が回せなくなり、左後頭部痛も出現して痛みがひどいと嘔吐もしたとの事でした。ロキソプロフェンを飲むと痛みが和らいで頸も回せるようになるが、切れるとまた痛むとの訴えでした。一人で独歩来院し、頸を動かさないように慎重に入室して来ましたが、Kernig 徴候はなく頸部は全方向に硬く、Jolt accentuation は痛みのため不可能でした。6 月 24 日には WBC 4900、CRP 0.400 と 3 日前よりも改善傾向で、髄膜炎にしては重篤感が乏しく、頭痛はあるもののやはり頸部痛が主体でした。

考察

いずれの症例も発熱と頸部痛が主で、比較的重篤感に乏しい事から、第一に CDS を疑い、頸椎の三方向 CT を施行しました。図-1 にそれぞれの症例の代表的な CT 画像を示します。症例 3 では疼痛を訴える左側だけではありますが、いずれも歯突起周囲に特徴的な石灰化が証明され、CDS と確定診断しました。NSAIDs の投与にて、全ての症例で症状は改善しました。

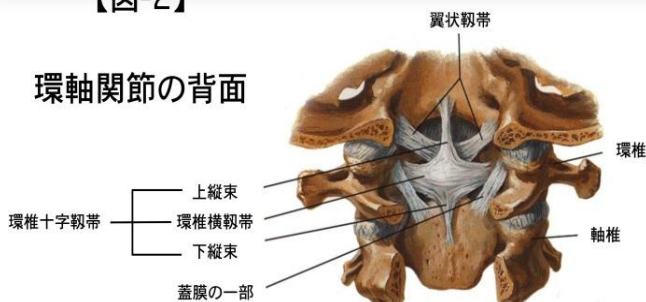
Crowned Dens Syndrome（CDS）は 1985 年に Bouvet らによって記載された、歯突起周囲の靱帯にピロリン酸カルシウム（CPPD：calcium pyrophosphate dehydrate）が沈着する、いわゆる偽痛風に属する疾患です。65%以上が 70 歳以上、男女比は 3：5 と女性に多いとされています。歯突起近傍の靱帯解剖を図-2 に示しますが、環椎十字靱帯や翼状靱帯に石灰化を呈します。

急性に発症し、重度の頸部痛と頸部の著明なこわばり・運動制限を呈して、発熱や炎症反応の上昇を伴います。



頤椎の単純レントゲンや MRI では診断は難しいとされますが、椎体腫瘍や椎体・椎間板の炎症などの否定のために、MRI を施行する事もあります。CDS の予後は良好で、NSAIDs の単独投与で十分に著効を示しますが、感染症を否定した上で、少量のステロイド剤を併用する事もあります。

【図-2】



診断には頤椎の CT 検査が最も有用であり、齒突起 (dens) の周囲を取り巻くように、冠 (crown) 状に石灰化沈着を認めるのが特徴で、これが Crowded Dens Syndrome という病名の由来となっています。

特徴的な症状から本疾患を疑えれば、採血と CT だけでも確定診断が可能であり、かつ NSAIDs で容易に治癒に持っていける事から、そのユニークな病名を、特異な画像と一緒に頭の中の引き出しに入れておくと思いいます。

結 語

以上、Crowded Dens Syndrome の 3 症例を提示しました。高齢者の不明熱で頤部痛を伴う症例では、CDS も鑑別に挙げて三方向の頤椎 CT を施行し、齒突起周囲の靭帯に石灰化はないか、確認してみる必要があると考えます。

11 月 12 日 (木) 山形慢性腎臓病 (CKD) 病診連携講演会 開催

「高齢者慢性腎臓病診断の留意点の病診連携」

JCHO 仙台病院 統括診療部長 佐藤 嘉伸 先生

去る 11 月 12 日 (木) 山形国際ホテルで、第 6 回山形慢性腎臓病 (CKD) 病診連携講演会を開催されました。(今年度、診ます会・中外製薬の共催)。当日は、北は新庄市から南は長井市まで 68 名の医療関係者の方々からご参加いただきました。

講演会は、座長に腎臓内科 出川紀行。済生館職員による一般演題講演、そして特別講演として JCHO 仙台病院 統括診療部長 佐藤嘉伸 先生より、ご講演いただきました。

一般演題： 済生館の栄養指導の現状と教育入院

管理栄養士より、栄養指導により腎機能の低下が通常より抑えられた事例紹介、病棟看護師より、CKD 教育入院の実際のプログラムを提示しながら説明がありました。また、今回参加された診療所の先生より、教育入院への追加事項として【運動】についての提案もいただきました。



特別講演： 高齢者慢性腎臓病診断の留意点の病診連携

続いて佐藤嘉伸 先生からは、高齢者の診断の留意点について講演。慢性腎臓病の診断の主な指標となる eGFR と尿所見。しかし、この 2 つの指標だけでも様々な事例あり、グレーゾーンにおける診療についてご説明いただきました。

また、CKD 診療ガイドラインに示されている eGFR 値だけで鑑別して専門医への紹介では、すべての患者を腎臓専門医だけでは対応できないことも説明があり、一般医にも CKD 診療に協力し、病診連携を進めていく必要性も話されました。

新任医師紹介

平成 27 年 10 月～

- ① 履歴
- ② 所属学会



窪田 俊憲 くぼた としのり

耳鼻いんこう科

- ① H15 年 山形大学卒
H23 年 山形大学大学院修了（医学博士）
- ② 日本耳鼻咽喉科学会（専門医・専門研修指導医）
日本耳鼻咽喉科学会（補聴器相談医）



大竹 浩也 おおたけ ひろや

病理診断科

- ① H7 年 山形大学卒
- ② 日本病理学会（専門医）
日本臨床細胞学会（専門医）



渡辺 靖章 わたなべ やすあき

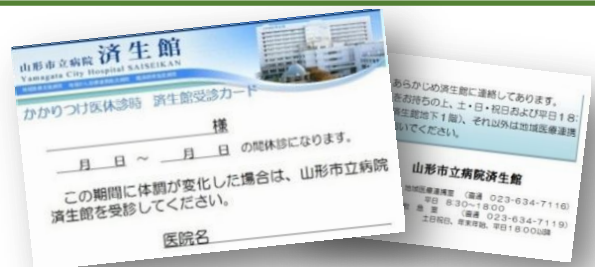
神経内科

- ① H24 東北大学卒
- ②

休診時患者登録のご案内

済生館では、先生方の出張や長期の休診時において、先生方が担当されておられます患者様が急変したときに診察させていただき体制「休診時患者登録制度」を構築しています。

休診時登録用の診療情報提供書か、お使いいただいている診療情報提供書に【休診期間】をご記載いただき、地域医療連携室まで FAX をお願いします。患者様には、休診時登録カードをお渡しします。



休診時登録用の患者様カードは、財布に診察券と一緒にしうことができます。裏面には、当院の地域医療連携室と救急室の電話番号が記載されています。是非、ご活用ください。

年末の臨時開院日のご案内

12 月 29 日（火）～1 月 4 日（日）は、大変ご迷惑をおかけしますが、外来診療を休診とさせていただきます。

また、臨時開院日は、12 月 30 日（水）8:30～11:30 ま で、地域医療連携室（紹介状のある方）か、1 階 1 番窓口（紹介状のない方）で受付をいたします。ご予約はお受けし ておりませんので、時間内に受付をお願いします。

※ 救急室は、年末年始も通常どおり対応しております。

12 月 30 日（水）臨時開院日の診療体制

診療科	担当医	診療科	担当医
消化器内科	黒木 実智雄	整形外科	大沼 秀治
呼吸器内科	會田 康子	脳神経外科	齋藤 伸二郎
循環器内科	宮脇 洋	神経内科	渡辺 靖章
内科	五十嵐 雅彦	皮膚科	矢口 順子
小児科	清水 行敏	泌尿器科	小澤 迪喜
	前田 勝子	産婦人科	酒井 伸嘉
外科	守本 和弘	眼科	鈴木 哲章
		耳鼻咽喉科	太田 伸男

※ 歯科 放射線科は休診になります。

今後の済生館症例検討会

済生館 内科系症例検討会

（第 162 回 平成 27 年度 第 4 回目）

日時：1 月 13 日（水）18:30～

症例提示診療科：

腎臓内科 循環器内科 神経内科
小児科

済生館 がん治療症例検討会

（第 44 回 平成 27 年度 第 5 回目）

日時：2 月 10 日（水）18:30～

症例提示診療科：

消化器内科 耳鼻いんこう科 血液内科

いずれも、「日本医師会生涯教育制度指定講習会（1.5 単位）」になります。

検討したい症例がございましたら、ご一報ください。

編集後記

【平成 27 年 9 月関東・東北豪雨】があった 9 月 10 日当日。東北大学 渡辺彰 教授をお招きして、診ます会講演会が予定されています。ニュース速報では、全鉄道、山形道はストップ。仙台からの移動は、東根の国道 48 号のみ。講演会中止も視野に、渡辺先生にご連絡すると「なんとしても必ず行く」。そして開演 15 分前に先生が到着。この日は、多くの先生方から、ご心配のお電話を頂戴しました。渡辺教授、ご連絡くださった先生方、誠にありがとうございました。翌日のニュースで、宮城県豪雨による被害状況を見て、青ざめました。まずは無事に開催できて何よりです。

山形市立病院 済生館

〒990-8533

地域医療連携室

山形市七日町 1-3-26

TEL 023-634-7116 FAX 023-626-6517

TEL 023-625-5555（代表）

TEL 023-626-6516（予約当日受付専用）

URL www.saiseikan.jp

Email renkeishitu@saiseikan.jp

編集 発行元 / 山形市立病院済生館 地域医療連携室